

飛翔

発行責任者
平塚MAC
池田忠宏



遠藤周作の影響を受けた書いた童話

返信手紙は私の宝物

令和元年十一月十九日ひらつか市民活動センターに於いて、平塚MACの学習会「会員と共に学ぶ」が、二十九名の出席で開催されました。内容は第一部に及川慎也さんから「私の中の遠藤周作」の講演があり、第二部では近藤正志さん、居石鋭二さん、江藤史雄さん、三名の自己紹介がありました。今回の学習会を担当された村松一男さんに寄稿をいただきました。

第一部 講演

遠藤周作は大正十二年生

れ、平成八年七十三歳で逝去しています。昭和四十一年代表作「沈黙」を発表、これはキリシタン禁制の江戸時代の長崎が舞台の小説です。

ポルトガル人宣教師ロドリゴは、信者キチジローの密告で捕らわれる。拷問を受けて踏絵を踏むよう迫られ、葛藤するロドリゴの前にキリストが語りかける。「踏むがよい、私はお前達に踏まれるために、この世に来たのだから」とあります。



平塚市史に掲載 渡辺範夫さん撮影

住民と関わりの深い寺院、神社から地域の歴史を探るため、「平塚市史」第13巻上・別編「神社」が、昨年4月に刊行されました。その中に昭和34年2月に撮影された渡辺範夫さんの写真が掲載されています。写真は上平塚（現中里）から富士山と八雲神社を望む。

弱い者に寄り添い救うのが「神」であってほしいという遠藤氏の宗教観が表れています。人を許すキリス

トの神としての愛、人間の弱さを認めた上での優しく見つめる無力なキリストは

遠藤周作に送った涙坊やの童話

学生の頃、学園紛争が激化し、授業も長らく中断していました。卒業するためには卒業論文を書いて提出する必要がありました。それで仕方なく読んで、強い印象を受けていた「沈黙」の感想文のようなものを書いて提出しました。その頃自分が抱えていた劣等感、挫折感みたいなものと重なり合っていたのだと思う。卒業論を書いた頃の思い出は、資料集めに図書館などを駆け巡って苦労しました。また。

遠藤周作自身の身の上などがどうしても解らず、直接電話をして遠藤氏からたしなめられました。又、上大岡の教会での講演に駆けつけ、一番前の席で拝聴したこともあります。

遠藤氏の影響を強く受けて書いた童話を遠藤氏に送ったら、返信をいただいた。その手紙は私の宝物です。

最後に及川さんが「涙坊やの童話」を十分間にわたって朗読して講演は終わりを駆け巡って苦労しました。また。

第一部 会員の紹介

近藤正志さん、居石鋭二さん、江藤史雄さんの三人によるグループ座談会の予定でしたが、時間の都合で各人の自己紹介を中心に行ないました。内容は次の通りです。

近藤正志さん

- ①非常勤講師（東京電機大学先端機械工学科）に定年退職後なった。
- ②十年前からキバナシヤク

ナゲなどの高山性シヤクナゲに興味を持ち、特殊素焼鉢を開発。（特許、実用新案、意匠登録、など四件）

居石鋭二さん

- ①名字を小学校の先生が読めない。営業で初対面の人とも名字の話しから始まり、相手はこちらを直ぐに覚えてくれる。
- ②入会動機は加藤修三さんの紹介で、入会前からアヒルの会に参加している。
- ③中学では陸上部、中距離が得意だった。高校ではワンダーフォーゲル部に在籍。
- ④パソコンに興味がある。

江藤史雄さん

- ①MAC入会してアヒルの会、囲碁を楽しむ会に参加、学習会世話人、飛翔の編集員を務めている。
- ②バラに興味があり今育てている。
- ③平塚囲碁初心者講座に参加している。
- ④ボランティア活動に参加している。